緊急提案（請願）

みんなが安心して暮らせる「日本長寿社会」構想を！

増税よりも内需による持続的な経済成長で増収を！

２０１２年８月１５日

「消費税増税」法案が採択されました

わが国議会は、衆議院が６月２６日に、参議院が８月１０日に、「社会保障」の安定財源のためとして「消費税増税」法案の採決をおこないました。壇上で増税賛成の白票を投じたとき、国会議員の方々は、史上初・国際的に新たな**「日本長寿社会（ここは三世代多重型社会）」**のどんな姿を思い画いていたのでしょうか。既成３政党の合意にもかかわらず国民に安心感を与えないのは、財政上のつじつま合わせを優先していたからにほかなりません。

来たるべき総選挙には、実態解決への内容を政策の芯柱として据えて明らかにすること。そのために、２００９年の衆院選で動向を左右した高齢女性票（オカンパワー）とともに、今度は高齢男性層の力（オトンパワー）を合わせた３０００万人（票。有権者の３．５人にひとり）の高齢者の関心と底力が、この国の将来を左右する「長寿社会」にむけて発揮されるときを迎えます。

対策不在は「新世紀１０年の失政」

「社会保障」についての身近な実感としては、先の大戦のあと辛苦して復興と発展に尽くした人びとの晩年の暮らしに手厚く報いる「社会保障」（「支えられる高齢者」への医療・介護・福祉）では成果を感じることができます。が、年ごと増えていまや３０００万人に達した高齢者（６５歳以上）を体現者とする「長寿社会（ここは高齢社会）」への実感はありません。国に対策がなく（構想＝大綱を軽視）、高齢者に意識がない（あっても活かせない）のでは進展のしようがありません。

現役世代とともに、増えつづけるアクティブ・シニア（「支える高齢者」）層が加わった**「三世代多重型社会」**の充実による持続的な経済成長に対して無策であったこと、それを為政者は「新世紀１０年の失政」として深く遠く省みたうえで国民に新たな参画を呼びかけること。増税とともに「内需による増収」への展望を合わせ論じてはじめて国民は納得がいくことになります。

それぞれが「長寿社会」の体現者として

一方、わが国の高齢者は、新世紀のこの１０年、「日本高齢社会」の体現者としてどういう過ごし方をしてきたでしょうか。１９９９年の「国際高齢者年」を機に、国連が２１世紀の潮流として訴えた「高齢化社会」への対応、**高齢者五原則「自立、参加、ケア、自己実現、尊厳」**を、身をもって体現して暮らしてきたでしょうか。

「長寿」として得ている時間と居場所つまり「人生６５年時代」から**「人生９０年時代」**への２５年間を、つちかった知識・技術・資産を活用しながら地域・職域に新たな「モノと場としくみ」をこしらえて、「みんな（all ages）のための社会」（１９９９年の「国際高齢者年」に掲げた目標）をめざして活動しているでしょうか。高齢者の側のありようを顧みるときでもあります。

国会議員のみなさんは政策として、各地各界のリーダーの方々はそれぞれの立場で、そして一人ひとりの高齢者はみずからの暮らしの中で、「来日方長」（来たる日まさに長し）といえるような「長寿社会」構想を掲げて、日また一日、新しい時代の達成に向き合おうではありませんか。

＊＊＊＊＊提案者　**堀内正範**
朝日新聞社社友　高連協オピニオン会員　web「月刊丈風」http://jojin.jp/編集人
e-mail　mhori888@ybb.ne.jp　tel&fax 0475-42-5673　〒 299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮9340-8　blog らうんじ・茶王樹・南九十九里から　http://myhp.ne.jp/chaoju/